資料４別紙１

登山口ヒグマ注意喚起看板および暫定版知床連山ウェブサイト制作について

1. 目的と制作の基本方針

知床国立公園内の登山道利用者に対し、ヒグマ生息地における登山の行動規範の理解や行動変容を促し、ヒグマとの遭遇回避及び人身事故リスク低減等を図るため、登山口に設置する「ヒグマ注意喚起看板」のリニューアル・新設、ならびに事前の情報収集拠点となる「Web 特設サイト（ https://policies.env.go.jp/park/shiretoko/trekking/ ）」を制作（概要は【別添】参照）した。
本設計・制作では、単なる情報提供にとどまらず、ナッジ理論とリスクコミュニケーションの知見を取り入れた包括的なシステムを設計・制作を行った。

- デジタルと現地のシームレスな連動
  Web サイトでの「事前の準備・教育」と、登山口看板での「最終確認」という２段構えのコミュニケーションを構築。
- 事実（ファクト）ベースのリスクコミュニケーション
  主観的な表現を避け、「世界有数のヒグマ高密度生息地である」という客観的事実を提示することで、登山者の自己責任の意識を想起させる（ナッジ）設計とした。
- インバウンド対応と認知負荷の軽減（UI/UX 設計）
  重要な行動指示のみを日英併記とし、詳細な説明はピクトグラムを活用することで、インバウンド対応と認知負荷の軽減を図った。

2. 成果物の概要とポイント

各媒体の役割を明確化し、登山者の行動変容を強力に促す仕組みを実装。

No.	媒体	主な役割と機能		ナッジ・デザインの工
1	Web 特設サイト	事前準備・リスク認知	訪問前のフィルタリングと事前教育（クマ撃退スプレーの正しい使い方や回避行動の習得）	行動規範や必須装備を開示し、知床登山に求められるハードルの高さを事前に認知させる事前コミットメントの促進。
2	登山アプリポップアップ通知	Web 特設サイトへの誘導	登山アプリ（YAMAP）上で「地図 DL」「山情報の閲覧」「登山直前の活動開始」操作を行う登山者を新設サイトへの確実な誘導。	日常生活内（地図 DL 時）や登山直前の現地など、ユーザーの状況に応じた最適なタイミングでの注意喚起とプッシュ通知。
3	既設看板	ヒグマ行動規範とセルフチェック（静的情報）	入山前に確認すべき普遍的なルール（4 項目の行動規範）の図解と整理。	必須項目のセルフチェックがつかない場合は「入山中止」を強く促すコミットメント設計。
4	新設看板	注意喚起ボード（動的情報）	日々変動するヒグマ出没状況のリアルタイム掲示と最終警告。	マグネットシートによる機動的運用と、黒・赤・白の強いコントラストによる強制的な視線誘導（フォーカルポイント）

3. 今後の展望

今シーズン実施する「Web 特設サイト（事前） ➡ 登山口看板（直前） ➡ アンケート（事後）」の一連の流れを通じて、登山者のリスク認知と行動変容（装備の携行や回避行動等）にどう寄与したか、利用者へのアンケートにより定量的に調査するとともに、「静的情報の正確性」と「動的情報の運用ルール」の妥当性について、専門家の方からのご意見を収集予定。得られたデータ・情報に基づく即応的な情報更新と表現のチューニングを行いつつ、改良版への行動変容を促す表現への修正やデザインの最適化を実施想定。

知床登山でのヒグマ対策に関する情報提供体制の効果検証（アンケート調査）について

1. 調査の背景と目的

知床ヒグマ対策連絡会議では、ヒグマのリスクに関して、登山者等の適切なリスク認知およびリスク回避の行動変容を促すため、登山計画時・開始時等における情報提供体制の改善（各種施策の実施）に取り組んでいる。環境省では、主に新たに実施する情報発信施策（Web 特設サイト、登山アプリポップアップ通知、登山口看板等）の効果を測定し、施策前後での登山者の意識変容や行動変容を定量的に検証すること等を目的に、アンケート調査を実施する。

2. 調査の全体構成と検証項目

本業務では主に以下(ア)～(エ)を目的に、①ウェブ調査（登山アプリオンラインアンケート）と②登山口調査（現地調査）の 2 種のアンケート調査を実施する。

（ア）【主にウェブ調査にて測定】施策前後による行動変容の定量化。
（イ）【主に登山口調査にて測定】属性やヒグマに関する知識・認識の現状把握。
（ウ）【ウェブ調査・登山口調査】情報収集の実態（手段・深度・充足感）と効果的な導線の把握。
（エ）【ウェブ調査・登山口調査】ヒグマ対策状況（スプレー携行等）と行動の促進・阻害要因の把握。

3. 各調査の実施要項

① ウェブ調査（登山アプリオンラインアンケート）

調査対象	「羅臼湖展望台」「硫黄山」「知円別岳」「南岳」「羅臼岳」で登山実績がある登山アプリ（YAMAP）ユーザー
基準調査	2024 年 1 月 1 日～2025 年 8 月 13 日に登山実績のある者を対象に、2026 年 8 月に実施予定（期待回答数：200 名）
効果測定調査	2026 年 7～9 月に登山実績のある者を対象に、2026 年 10 月頃に実施予定（期待回答数：100 名）。
主な調査項目（全 20 問程度）	アカウント情報（属性情報）、情報収集状況、対策に関する知識・実施状況、対策グッズの準備状況（スプレー等）、ヒグマ・ヒグマリスクに対する認識（規範意識・責任意識等）、各情報発信メディア（Web 特設サイト、登山アプリポップアップ通知、登山口看板等）による行動変容。

② 登山口調査（現地調査）

調査対象・場所	知床連山登山者を対象とし、岩尾別登山口にて実施 （北海道大学 愛甲教授の研究室と連携）。
実施時期	2026 年 8 月・9 月頃 （登山口での対面調査は土日祝に計 6 日程度を予定。）
調査方法	紙またはオンライン回答フォームを使用。登山口での調査として回答数 300 名を目標とする（1 日 80 人×回答率約 60%×6 日を想定）。この他、拠点施設（登山口、V.C 等）でアンケート回答のチラシを掲示・配布予定。
主な調査項目（全 20 問程度）	属性情報、情報収集状況、遭遇しないための対策や対処法（複数人での行動、ヒグマ目撃アンケートへの回答等）の理解度、対策グッズ（スプレー等）の準備状況と理由、ヒグマ・ヒグマリスクに対する認識（規範意識・責任意識等）、各情報メディアによる行動変容、近年のヒグマ増加による影響。

4. 今後の展望意識変容測定のフレームワーク

①ウェブ調査では主に、情報発信施策実施以前の「基準調査」と、施策実施後の同一の設問による「効果測定調査」を実施し、比較・検証することで、施策による意識変容および行動変容を定量化する。②では主に、情報収集を行った段階（登山計画時・開始時等）と情報収集先メディアのクロス集計等から効果的な導線を、また属性やヒグマに関する認識と対策の認知・実施状況から、リスク回避の促進・阻害要因の把握を行うことを想定。

知床地域及び知床五湖でのヒグマレクチャー映像の改修・製作について

1. 背景

登山者への情報提供方法として、「移動前（旅マエ）」の「Web 等での動画資料：や「移動中（旅ナカ）」の「拠点施設での啓発動画の放映やレクチャーの実施」、「移動前（旅マエ）」の「が挙げられる。環境省では今年度、登山者を含む知床地域全体の一般観光客向けに、旅マエ、旅ナカでの視聴を想定した、比較的詳細な内容のヒグマ対策や知床のヒグマの現状を紹介する、知床全体版のレクチャー映像の製作を予定している。

当該レクチャー映像は五湖 FH レクチャー映像の改修にあわせて製作予定であり、五湖 FH レクチャー映像については、利用適正化計画改定等に伴う更新のほか、情報が古い、利用傾向を押さえた映像構成や演出になっていない、多言語への対応が不十分、といった課題にも対応する。

2. 知床全体版ヒグマレクチャー映像について

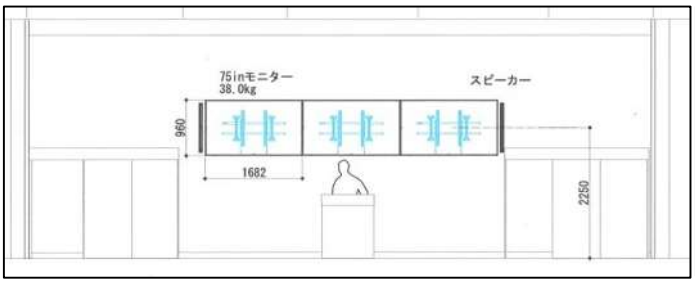
知床全体版ヒグマレクチャー映像は、知床地域の遊歩道・登山道等を利用する一般観光客（登山者を含む）向けに、各種ウェブサイトやビジターセンター等の知床の拠点施設での放映を想定している。長さは 6 分程度とし、ナレーションや字幕に加え、映像演出等も含めて多言語対応を行う。9 月に映像撮影、9～11 月に有識者へのヒアリングを実施し、12 月までにシノプシスやナレーションを確定した上で、翌年 3 月に映像完成予定。内容は、ヒグマの生態を理解し、出会わないための行動をとることをメインに、知床がヒグマの生息地であること（心構え）、遭遇回避、遭遇時の適切な行動、人とヒグマの共存のための利用マナーを伝える構成とする。

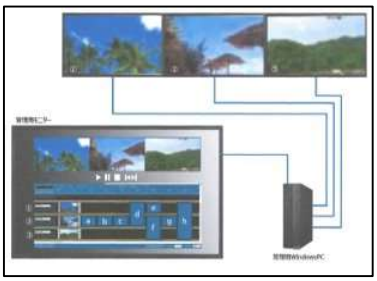
＜構成概要＞

セクション	内容概要
① 知床の価値・ヒグマの生態	知床の自然の価値やヒグマの大きさや能力、危険性を紹介。
② ヒグマに対する心構え	人はヒグマの住処を訪れている立場であり、「出会わない」ことが重要。
③ 移動中にヒグマを見かけたら	車（自転車・バイク）で遭遇した際の安全な待機・通過方法を紹介。 併せて目撃情報の通報と情報共有の重要性を呼びかける。
④ 人とヒグマの軋轢	ヒグマ渋滞、接近行為、餌やりなどの問題と法規制を説明。
⑤ ヒグマは海から観察	ヒグマを安全に観察する場合は、観光船等で海上から見ることを勧める。
⑥ ヒグマに出会わないために	音を出す、周囲を確認する、食べ物で誘引しない、単独行動を避ける等の予防策を紹介。
⑦ ヒグマに出会ったら	落ち着いて距離を取り、ヒグマを刺激しない行動を解説。 防御姿勢や撃退スプレー(+レンタル)にも触れる。

3. 知床五湖 FH レクチャー映像について

昨年度、知床五湖登録引率者及び有識者へのヒアリングと、知床五湖あり方協議会での協議を行い、構成案を作成した。既存の「植生保護期映像」と「ヒグマ活動期映像」の映像2種をベースに、より“分かりやすく（見やすく）、現実味を持ってもらえる”映像となるように、またインバウンド利用者向けの映像表現や多言語表示改修を行う。また口頭レクチャーの内容やマニュアルの改定も実施予定である。見やすさ及び多言語対応の観点からモニターのサイズアップを行う他、分かりやすくメリハリのある映像構成とするため、マルチ画面での放映を行うことを想定している。





【別添①】

第1段： 事前準備・教育
現地へ移動
第2段：直前確認・警告
「知床登山の心得（標準装備・ルール）」を
インストールし、土台を作る
現実（リアリティ）を突きつけ、安全行動のスイッチを入れる
場所・状況
自宅、宿泊先、移動中
思考モード
理性・熟考（情報を冷静に受け取れる状態）
媒体
YAMAPアプリ & Web特設サイト
場所・状況
登山口（入山直前）
思考モード
直感・感情（早く登りたいという焦り、正常性バイアス）
媒体
既設看板（静的ルール） & 新設看板（動的リスク）
ユーザーの行動・接点
期待する効果
① YAMAPでのアクション
地図DL、山情報の閲覧など
【タイムリーな介入】
日常の可処分時間があるタイミングでポップアップを通知し、確実にWebサイトへ誘導する。
② Webサイトでの学習
ルールの確認、装備のチェック
【社会規範・デフォルト化】
クマスプレー等を「推奨」ではなく「標準装備」として提示し、準備不足は規範から外れている（恥ずかしい）と認知させる。
③ 事前コミットメント
入山への覚悟を決める
【正常性バイアスの事前排除】
知床登山のハードルの高さを事前に理解させ、万全の装備を持った状態で現地へ向かわせる。
ユーザーの行動・接点
期待する効果
④ 既設看板での最終確認
セルフチェック
【コミットメントの強制】
「スプレーの正しい使い方を理解しているか」等、入山資格を問い、チェックがつかない場合は「入山中止」の決断を迫る。
⑤ 新設看板での直感的な警告
警戒レベル・直近出没マップ
【顕著性と利用可能性ヒューリスティック】
強烈なコントラストとレベル表記で視線を引きつけ、「ここに出た」という危機感を直感に刺す。
⑥ 最終的な行動変容（実行）
装備のセット、引き返し
【リスク回避行動の完遂】
正常性バイアス（自分は大丈夫）を排除し、装備の確実なセット、あるいは入山を取りやめるという「実際の行動」を起こさせる。

資料４別紙１（別添①）

配布場所：岩尾別・硫黄山・羅臼温泉　配布日：2026年____月____日

知床の登山に関する意識調査

この調査は、知床での登山について登山者の皆さまのご意見を伺うことを目的としています。アンケートは**全4ページ**です。ご記入後は、**1か月以内**にポストへ投函してください。回答は統計的に処理し、個人が特定される形で公表することはありません。
なお、Webでの回答も可能です。右の二次元コードから回答サイトへアクセスしてください。Webで回答された場合は、この用紙の返送は不要です。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【調査主体】環境省釧路自然環境事務所　担当：ウトロ自然保護官事務所
〒099-4354 北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10　電話：0152-24-2297
【調査協力】北海道大学大学院農学研究院　花卉・緑地計画学研究室　愛甲哲也

〈今回のご自身の登山についてうかがいます。〉

問1　今回の登山の日程について、当てはまる番号一つに○をつけてください。

1. 日帰り登山　2. 1泊2日　3. 2泊3日
4. 3泊4日　5. 4泊5日以上

問2　今回の登山の形態について、当てはまる番号一つに○をつけてください。

1．単独登山（1名）　2．友人･家族など2～3名で登山
3．友人･家族など4名以上で登山　4. ガイド付きツアーに参加

〈今回、ご自身が行ったヒグマ対策についてうかがいます。〉

問3　今回の登山で、以下のものを持参しましたか？それぞれ当てはまる番号一つに○をつけてください。
持参した場合は、具体的な種類や、所有品かレンタル品かについてもお答えください。

	持参した	持参しなかった
音の出るもの	1．（クマ鈴 ・ ふえ ・ ラジオ ・ その他（＿＿＿＿＿＿））	2
クマ撃退スプレー	1．（自身の所有物 ・ レンタル品）	2
ベア･キャニスター（フードコンテナ）	1．（自身の所有物 ・ レンタル品）	2

問4　今回の登山で、「フードロッカー※1」を利用しましたか？当てはまる番号一つに○をつけてください。
（※1：野営地に設置されているステンレス製の食料保管庫。クマには開けることができない構造になっている。）

１．野営時に利用した　２．野営時には利用しなかった　3．　今回は野営をしなかった

問5　あなたはクマ撃退スプレーの使用方法を十分に理解していると思いますか。当てはまる番号一つに○をつけてください。

1. 全くそう思わない　2. あまりそう思わない　3. どちらともいえない　4．　ややそう思う　5．とてもそう思う

問6　今回の登山で、ヒグマに関する情報収集はどの段階で行いましたか？情報収集した時や場所について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

0. 情報収集はしていない　1. 登山計画時（自宅）　２．知床到着時　3.入山直前（登山口）

問7　今回の登山にあたり、以下の情報源はヒグマ対策にどの程度役立ちましたか？それぞれ当てはまる番号一つに○をつけてください。

	利用しなかった	全く役に立たなかった	←	どちらとも言えない	→	非常に役立った
1. 家族・友人・知人	0	1	2	3	4	5
2. 新聞・雑誌・テレビ	0	1	2	3	4	5
3. 登山口の掲示	0	1	2	3	4	5
4. 山中の掲示	0	1	2	3	4	5
5. ビジターセンターなどの施設	0	1	2	3	4	5
6.WEBサイト「知っておくべき 知床登山の心得」	0	1	2	3	4	5
7. WEBサイト「知床のひぐま」	0	1	2	3	4	5
8. WEBサイト「知床情報玉手箱」	0	1	2	3	4	5
9. 知床財団・知床自然センターSNS	0	1	2	3	4	5
10. アプリケーション（YAMAPなど）	0	1	2	3	4	5
11. 登山者の個人のブログ・SNS	0	1	2	3	4	5
12. その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	0	1	2	3	4	5

問8　＜登山口の掲示を利用された方（問7で「3. 登山口の掲示」に1～5で回答された方）に質問します。それ以外の方は問9へ進んでください。＞

今回の登山において、登山口に設置された「情報提供ボード（本日の警戒レベル、直近の目撃マップ等）」を見て、どう感じましたか？それぞれ当てはまる番号に○をつけてください。

	全くそう感じなかった	←	どちらとも言えない	→	非常にそう感じた
自分にも起こり得ると生々しい危機感を感じた	1	2	3	4	5
「本日の警戒レベル」が目に入り、直感的に危険を感じた	1	2	3	4	5
「自分の装備が足りていない」と焦りや恥ずかしさを感じた	1	2	3	4	5
恐怖を感じ、入山を中止しようか、ためらった	1	2	3	4	5
いつも通りの注意書きだと思い、特に何も感じなかった	1	2	3	4	5

問9　登山道でヒグマに遭遇しないために取り組んでいるご自身の対策についてうかがいます。各行動につき、当てはまる番号一つに○をつけてください。

	取り組んでいる	知っているが取り組んでいない	知らなかった
声を出したり、熊鈴を携帯して、人の存在をヒグマに知らせる	1	2	3
食べ物やゴミを捨てない	1	2	3
できるだけ一人で行動しない	1	2	3
ヒグマの最新情報を確認し、遭遇リスクが低い計画を立てる	1	2	3

問10　登山道でヒグマに遭遇した場合に取るべき対応について、ご存じですか？各項目について、当てはまる番号を一つに○をつけてください。

	知っている	知らなかった
自分からヒグマに近づかない、つきまとわない	1	2
大声を出したり威嚇したりせず、ヒグマを刺激しない	1	2
走って逃げずに、ヒグマから目を離さずゆっくり距離を取る	1	2
目撃情報を、登山口の「ヒグマ目撃アンケート」に記入する。または、関係機関に連絡する	1	2

問11　昨年の羅臼岳でのヒグマによる人身事故を受け、今回の登山でこれまでと行動を変えたことはありましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

0. 今回の登山において特に変化はなかった
1. 滞在時間を短縮した
2. 人が多い日や時間に登山をした
3. 早朝と夕方を避けて登山をした
4. 複数人で登山をした
5. ルートを変更して登山をした
6. その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

〈あなたのヒグマに関するこれまでの経験や意識についてうかがいます。〉

問12　あなたはこれまで、ヒグマの姿や痕跡を見たことはありますか？一つだけ○をつけてください。

1. 実際に姿を見たことがある
2. 実際に痕跡（足跡、ふんなど）を見たことがある
3. 実際に姿と痕跡の両方を見たことがある
4. 姿や痕跡を見たことはないが、出没する可能性はあると思う
5. 姿や痕跡を見たことはなく、出没する可能性も低いと思う
6. わからない

問13　ヒグマに関する以下の項目について、あなたの考えに最も近い番号を一つ選び、○をつけてください。

	そう思わない	←	どちらとも言えない	→	そう思う
ヒグマは豊かな自然の象徴だ	1	2	3	4	5
ヒグマは地上の生態系の中心だ	1	2	3	4	5
ヒグマを間近で見たい・観察したい	1	2	3	4	5
ヒグマの生態や行動について知りたい・学びたい	1	2	3	4	5
ヒグマの保護は次世代のために必要だ	1	2	3	4	5
人を見ても逃げないヒグマは問題だ	1	2	3	4	5
ヒグマの生息地を守るのは人間の責任だ	1	2	3	4	5
ヒグマによる事故は恐ろしい	1	2	3	4	5
人間に対し、避けない、付きまとう、実害をもたらすなどといった問題行動を起こすヒグマは駆除すべきだ	1	2	3	4	5
市街地近くに定着したヒグマは駆除すべきだ	1	2	3	4	5
ヒグマとの共存は可能だ	1	2	3	4	5
行政は登山道でのヒグマ対策を行うべきだ	1	2	3	4	5
登山者1人1人もヒグマ対策に一定の役割をはたすべきだ	1	2	3	4	5

問14　近年のヒグマ出没増加により、ご自身の普段の登山において行き先や時間帯に変化はありましたか？一つだけ○をつけてください。

1. 変わっていない （→次ページの問15-aへ） 2. 変わった （→次ページの問15-bへ）

問15-a ＜問14で「1. 変わっていない」を選択した方に伺います。＞ご自身の登山における行動が変わらなかった理由について、当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. ヒグマの出没が増えていることを知らなかったから
2. ヒグマの出没が増えても、登山中に遭遇することはまずないと思うから
3. 登山中にヒグマに遭遇しても、対応できると思うから
4. 遭遇防止策(クマ鈴持参など)を講じた上で登れば問題ないと思うから
5. その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問15-b ＜問14で「2. 変わった」を選択した方に伺います。＞ご自身の登山における行動はどのように変わりましたか？当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 滞在時間を短縮して登山をするようになった
2. 人が多い日や時間に登山をするようになった
3. 早朝と夕方を避けて登山をするようになった
4. なるべく複数人で登山をするようになった
5. ルートを変更して登山をするようになった
6. 別の山や緑地、公園に行くようになった
7. その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

〈最後はあなたご自身についてうかがいます。当てはまる番号一つに○をつけてください。〉

問16 登山の経験

1．森林公園や低山の散策・ハイキングが中心
2．半日や日帰りでの登山が中心
3．宿泊を伴う縦走登山、沢登、岩登り、山スキー等の経験がある

問17 登山の経験年数

1．１年未満 2．１年以上５年未満 3．５年以上１０年未満 4．１０年以上

問18 知床（連山）での登山経験

1. はじめて 2．２回目 3．３回目 4．４回目 5．５回以上

問19 登山の頻度

1. 年に一回 2. 年に数回 3. 月に数回 4. 週に数回 5. ほぼ毎日

問20 性別

1. 男性 2. 女性 3. その他

問21 年齢

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

問22 お住まい

1. 北海道内（＿＿＿＿＿＿）市・町・村 2. 北海道外（＿＿＿＿＿＿）都・府・県

■ その他、知床国立公園の利用や管理について、ご意見があればご自由にお書きください。

これで本アンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

資料４別紙１（別添②）

知床連山登山者向け　ヒグマに関する意識調査

（施策実施前　基準調査）

2026/7/16 ver

【ご回答にあたって】

このアンケートは、知床連山に登山した経験のある方を対象に、ヒグマに関する情報収集・知識・対策グッズの準備状況などについてお伺いするものです。回答結果は今後の情報発信施策の参考にのみ使用し、個人が特定される形で公表することはありません。直近の登山時の記憶・お気持ちを思い出しながら、お答えください。

■ セクション１　知床連山への登山経験について

Q1. 直近で知床連山に登ったのはいつですか。

1. 2024 年以前
2. 2025 年
3. 2026 年
4. 登ったことがないので回答できない

Q2. 直近の知床連山への登山時のパーティーとして最も近いものを選んでください。

1. 単独登山
2. 友人・家族との少人数グループ（2〜3 名）
3. 友人・家族との中規模グループ（4〜9 名）
4. ガイド付きツアー
5. 登ったことがないので回答できない

Q3. 直近の知床連山への登山時に、交通手段で飛行機を利用しましたか？

1. 飛行機を利用した
2. 飛行機を利用しなかった
3. 登ったことがないので回答できない

■ セクション２　ヒグマに関する情報収集について

Q4. 直近の知床連山への登山前に、ヒグマに関する情報を意識的に調べましたか。

1. 積極的に調べた
2. 少し調べた
3. あまり調べなかった
4. まったく調べなかった

Q5. Q4 の情報収集にどの程度の時間・手間をかけましたか。

1. ほとんど時間をかけなかった（5 分未満）
2. 少し調べた（5〜30 分程度）
3. ある程度調べた（30 分〜1 時間程度）
4. しっかり調べた（1 時間以上）

Q6. Q4 の情報収集で、ヒグマに関する情報は十分に得られたと感じましたか。

1. 十分に得られた
2. どちらかといえば十分だった
3. どちらかといえば不十分だった
4. まったく不十分だった
5. 情報収集をしなかったため該当なし

Q7. Q4 のヒグマに関する情報収集は「どの段階」で行いましたか？（あてはまるものをすべて選択）

1. 登山計画時（自宅など）
2. 知床到着時・滞在中
3. 登山口（入山直前）
4. 情報収集はしていない

Q8. Q4 の情報をどのような手段で入手しましたか。（あてはまるものをすべて選択）

1. 登山アプリに投稿された登山者の記録（YAMAP・ヤマレコ 等）
2. 環境省・行政機関のウェブサイト
3. 知床財団・自然保護団体のウェブサイト・SNS
4. その他情報サイト・ブログ
5. SNS（Instagram・X 等）
6. ビジターセンター・登山口の掲示板

7. 知人・登山仲間との会話
8. 書籍・ガイドブック
9. 現地ビジターセンター・観光協会等への電話
10. 情報を収集したが具体的な手段は覚えていない
11. 情報を収集しなかった

Q9. Q8 の情報入手手段の中で、最も信頼できたものはどれですか？

1. 登山アプリに投稿された登山者の記録（YAMAP・ヤマレコ 等）
2. 環境省・行政機関のウェブサイト
3. 知床財団・自然保護団体のウェブサイト・SNS
4. その他情報サイト・ブログ
5. SNS（Instagram・X 等）
6. ビジターセンター・登山口の掲示板
7. 知人・登山仲間との会話
8. 書籍・ガイドブック
9. 現地ビジターセンター・観光協会等への電話
10. 情報を収集したが具体的な手段は覚えていない
11. 情報を収集しなかった

■ セクション３　ヒグマに関する知識・認識について

Q10. 登山道でヒグマに遭遇しないために、ご自身が「実際に行っている対策」をすべて選んでください。

1. 声を出したり、熊鈴を携帯して、人の存在を知らせている
2. 食べ物やゴミは絶対に捨てず、臭いを出さないようにしている
3. できるだけ一人での行動を避けている
4. 事前にヒグマの最新情報を確認し、遭遇リスクが低い計画を立てている
5. 対策は知っているが、取り組んでいない
6. 対策を知らなかった

Q11. 登山道でヒグマに遭遇した場合にとるべき対応として、あなたが「知っているもの」をすべて選んでください。

1. 自分からヒグマに近づかない、つきまとわない
2. 大声を出したり威嚇したりせず、ヒグマを刺激しない
3. 走って逃げずに、ヒグマから目を離さずゆっくり距離を取る
4. 目撃情報を、登山口のアンケートや関係機関に報告する
5. 対応を知らなかった

Q12. 知床連山の登山において、ヒグマによる事故リスクはどの程度あると思いますか。

1. 非常に高い
2. やや高い
3. どちらともいえない
4. あまり高くない
5. ほとんどない

■ セクション４　ヒグマ対策グッズの準備について

Q13. 直近の知床連山登山で、クマ撃退スプレーを携行しましたか。

1. 携行した（自分で購入・所持）
2. 携行した（レンタル利用）
3. 携行しなかったが、必要だと思っていた
4. 携行しなかった（必要と感じなかった）
5. 存在を知らなかった

Q14. クマ撃退スプレーの適切な使い方を理解していますか。

1. 十分に理解している（実際に練習・訓練したことがある）
2. ある程度理解している（説明書・動画等で確認した）
3. あまり理解していない
4. まったく理解していない
5. クマスプレーを携行しなかったため該当なし

Q15. クマ撃退スプレーを準備した（または準備しなかった）主な理由を教えてください。

1. 効果・必要性を感じているから（準備した理由）
2. 同行者やガイドが準備していたから（準備した理由）
3. 情報を見て必要だと知ったから（準備した理由）
4. 最近のテレビやネットでのクマ被害のニュースを見たから（準備した理由）
5. 昨年の羅臼岳での人身事故を踏まえて（準備した理由）
6. 入手方法・費用の面で難しかった（準備しなかった理由）
7. 必要性を感じなかった（準備しなかった理由）
8. 存在・使い方を知らなかった（準備しなかった理由）

9. その他

Q16. 直近の知床連山登山時に携行・準備したクマ撃退スプレー以外のヒグマ対策グッズを教えてください。（あてはまるものをすべて選択）

1. クマ鈴（ベル）
2. ホイッスル
3. ラジオ・音の出る機器
4. フードキャニスター
5. 携帯トイレ
6. 電気柵
7. 特に準備しなかった
8. その他

■ セクション５　リスク認識・行動への影響について

Q17. 知床連山の登山を計画・実施する際、ヒグマへの不安や恐怖を感じましたか。

1. 強く感じた
2. やや感じた
3. あまり感じなかった
4. まったく感じなかった

Q18. ヒグマへの不安や恐怖が、登山の計画・行動に影響を与えましたか。（あてはまるものをすべて選択）

1. 登山ルートや時期の選択に影響した
2. 出発・行動時間の選択に影響した
3. グループ人数・構成の選択に影響した
4. 装備・持ち物の選択に影響した
5. 登山自体を躊躇・見送ったことがある
6. 特に影響はなかった

■ セクション６　今後の登山のために必要だと思う情報について

Q19. 今後、知床連山のヒグマに関してどのような情報・サービスがあれば役立つと思いますか。（あてはまるものをすべて選択）

1. リアルタイムのヒグマ目撃・出没情報
2. ヒグマとの遭遇時の対処法（動画・図解など）
3. クマスプレーの使い方・入手方法の案内
4. 登山ルートごとのヒグマ遭遇リスク情報
5. 知床のヒグマに関する生態・行動の解説コンテンツ
6. 登山アプリ上でのプッシュ通知・警告機能
7. 登山口でのレクチャー・冊子配布
8. 特に必要ない
9. その他

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

資料４別紙１（別添③）

知床連山登山者向け　ヒグマに関する意識調査

（施策実施後　効果測定調査）

2026/7/16 ver

【ご回答にあたって】

このアンケートは、知床連山に登山した経験のある方を対象に、ヒグマに関する情報収集・知識・対策グッズの準備状況などについてお伺いするものです。回答結果は今後の情報発信施策の参考にのみ使用し、個人が特定される形で公表することはありません。直近の登山時の記憶・お気持ちを思い出しながら、お答えください。

■ セクション１　知床連山への登山経験について

Q1. 直近で知床連山に登ったのはいつですか。

1. 2024 年以前
2. 2025 年
3. 2026 年
4. 登ったことがないので回答できない

Q2. 直近の知床連山への登山時のパーティーとして最も近いものを選んでください。

1. 単独登山
2. 友人・家族との少人数グループ（2〜3 名）
3. 友人・家族との中規模グループ（4〜9 名）
4. ガイド付きツアー
5. 登ったことがないので回答できない

Q3. 直近の知床連山への登山時に、交通手段で飛行機を利用しましたか？

1. 飛行機を利用した
2. 飛行機を利用しなかった
3. 登ったことがないので回答できない

■ セクション２　ヒグマに関する情報収集について

Q4. 直近の知床連山への登山前に、ヒグマに関する情報を意識的に調べましたか。

1. 積極的に調べた
2. 少し調べた
3. あまり調べなかった
4. まったく調べなかった

Q5. Q4 の情報収集で、ヒグマに関する情報は十分に得られたと感じましたか。

1. 十分に得られた
2. どちらかといえば十分だった
3. どちらかといえば不十分だった
4. まったく不十分だった
5. 情報収集をしなかったため該当なし

Q6. Q4 のヒグマに関する情報収集は「どの段階」で行いましたか？（あてはまるものをすべて選択）

1. 登山計画時（自宅など）
2. 知床到着時・滞在中
3. 登山口（入山直前）
4. 情報収集はしていない

Q7. Q4 の情報をどのような手段で入手しましたか。（あてはまるものをすべて選択）

1. 知床連山ウェブサイト（特設 LP）
2. 登山口の新設情報ボード（本日の警戒レベル等）
3. YAMAP からのポップアップ通知や注意喚起文
4. 登山アプリに投稿された登山者の記録（YAMAP・ヤマレコ 等）
5. 環境省・行政機関のウェブサイト
6. 知床財団・自然保護団体のウェブサイト・SNS
7. その他情報サイト・ブログ
8. SNS（Instagram・X 等）
9. ビジターセンター・登山口の掲示板
10. 知人・登山仲間との会話
11. 書籍・ガイドブック
12. 現地ビジターセンター・観光協会等への電話

13. 情報を収集したが具体的な手段は覚えていない
14. 情報を収集しなかった

Q8. Q7 の情報入手手段の中で、最も信頼できたものはどれですか？

1. 知床連山ウェブサイト（特設 LP）
2. 登山口の新設情報ボード（本日の警戒レベル等）
3. YAMAP からのポップアップ通知や注意喚起文
4. 登山アプリに投稿された登山者の記録（YAMAP・ヤマレコ 等）
5. 環境省・行政機関のウェブサイト
6. 知床財団・自然保護団体のウェブサイト・SNS
7. その他情報サイト・ブログ
8. SNS（Instagram・X 等）
9. ビジターセンター・登山口の掲示板
10. 知人・登山仲間との会話
11. 書籍・ガイドブック
12. 現地ビジターセンター・観光協会等への電話
13. 情報を収集したが具体的な手段は覚えていない
14. 情報を収集しなかった

■ セクション３　ヒグマに関する知識・認識について

Q9. 登山道でヒグマに遭遇しないために、ご自身が「実際に行っている対策」をすべて選んでください。

1. 声を出したり、熊鈴を携帯して、人の存在を知らせている
2. 食べ物やゴミは絶対に捨てず、臭いを出さないようにしている
3. できるだけ一人での行動を避けている
4. 事前にヒグマの最新情報を確認し、遭遇リスクが低い計画を立てている
5. 対策は知っているが、取り組んでいない
6. 対策を知らなかった

Q10. 登山道でヒグマに遭遇した場合にとるべき対応として、あなたが「知っているもの」をすべて選んでください。

1. 自分からヒグマに近づかない、つきまとわない
2. 大声を出したり威嚇したりせず、ヒグマを刺激しない

3. 走って逃げずに、ヒグマから目を離さずゆっくり距離を取る
4. 目撃情報を、登山口のアンケートや関係機関に報告する
5. 対応を知らなかった

Q11. 知床連山の登山において、ヒグマによる事故リスクはどの程度あると思いますか。

1. 非常に高い
2. やや高い
3. どちらともいえない
4. あまり高くない
5. ほとんどない

■ セクション４　ヒグマ対策グッズの準備について

Q12. 直近の知床連山登山で、クマ撃退スプレーを携行しましたか。

1. 携行した（自分で購入・所持）
2. 携行した（レンタル利用）
3. 携行しなかったが、必要だと思っていた
4. 携行しなかった（必要と感じなかった）
5. 存在を知らなかった

Q13. クマ撃退スプレーの適切な使い方を理解していますか。

1. 十分に理解している（実際に練習・訓練したことがある）
2. ある程度理解している（説明書・動画等で確認した）
3. あまり理解していない
4. まったく理解していない
5. クマスプレーを携行しなかったため該当なし

Q14. クマ撃退スプレーを準備した（または準備しなかった）主な理由を教えてください。

1. 効果・必要性を感じているから（準備した理由）
2. 同行者やガイドが準備していたから（準備した理由）
3. YAMAP の通知や新ウェブサイトで『標準装備』と知ったから（準備した理由）
4. 登山口の看板を見て、必要だと知ったから（準備した理由）

5. 入手方法・費用の面で難しかった（準備しなかった理由）
6. 必要性を感じなかった（準備しなかった理由）
7. 存在・使い方を知らなかった（準備しなかった理由）
8. 最近のテレビやネットでのクマ被害のニュースを見たから（準備した理由）
9. 昨年の羅臼岳での人身事故を踏まえて（準備した理由）
10. その他

Q15. 直近の知床連山登山時に携行・準備したクマ撃退スプレー以外のヒグマ対策グッズを教えてください。（あてはまるものをすべて選択）

1. クマ鈴（ベル）
2. ホイッスル
3. ラジオ・音の出る機器
4. フードキャニスター（または野営地のフードロッカーを利用）
5. 携帯トイレ
6. 電気柵
7. 特に準備しなかった
8. その他

■ セクション５　今後の登山のために必要だと思う情報について

Q16. 今後、知床連山のヒグマに関してどのような情報・サービスがあれば役立つと思いますか。（あてはまるものをすべて選択）

1. リアルタイムのヒグマ目撃・出没情報
2. ヒグマとの遭遇時の対処法（動画・図解など）
3. クマスプレーの使い方・入手方法の案内
4. 登山ルートごとのヒグマ遭遇リスク情報
5. 知床のヒグマに関する生態・行動の解説コンテンツ
6. 登山アプリ上でのプッシュ通知・警告機能
7. 登山口でのレクチャー・冊子配布
8. 特に必要ない
9. その他

■ セクション６　新情報発信メディアの行動変容効果（題名は仮）

Q17. 今回の知床連山への登山計画時（自宅や移動中）、YAMAP アプリ画面に「ヒグマ対策に関するポップアップ通知や注意喚起文」が表示されたことを覚えていますか？

1. 覚えており、通知をタップして詳細情報（ウェブサイト等）を見た
2. 覚えているが、詳細情報は読まずに閉じた
3. 表示されたか覚えていない・気づかなかった
4. 表示されていない

Q18. 登山前に「新設された知床連山ウェブサイト（LP）」を閲覧した方に伺います。サイトを見て、あなたの「準備」はどう変わりましたか？（あてはまるものをすべて選択）

1. 「標準装備」等の記述を見て、クマスプレー等を購入・準備した（社会規範ナッジの効果）
2. 今の時期がなぜ危険か（繁殖期など）の解説を読み、納得して対策をした（理由ナッジの効果）
3. 装備がないと不安になり、準備を見直した（損失回避の効果）
4. サイトは見たが、準備や行動は特に変えなかった（行動変容の不発）
5. ウェブサイトを閲覧していないため該当なし

Q19. 入山直前（現地）、登山口に設置された新しい「情報提供ボード（本日の警戒レベル、直近の目撃マップ等）」を見て、直感的にどのように感じましたか？（最も近いもの１つ）

1. 「昨日ここで出たのか」など、自分にも起こり得ると生々しい危機感を感じた（利用可能性ヒューリスティックの効果）
2. 「本日の警戒レベル（赤色等）」が目に入り、直感的に危険を感じた（顕著性の効果）
3. 「自分の装備が足りていない」と焦りや恥ずかしさを感じた（自己客観視・社会規範の効果）
4. 怖すぎて、正直行くのをやめようかと思った（過度な恐怖訴求の副作用検知）
5. いつも通りの注意書きだと思い、特に何も感じなかった（正常性バイアスの残存）
6. 見ていない・気づかなかった

Q20. 登山口での情報ボード確認後、入山直前～登山中に『実際の行動』を変えましたか？（あてはまるものをすべて選択）

1. レンタルしていなかったクマスプレーを、急いで借りに行った・手配した
2. ザックの中にあったスプレーを、すぐ使える腰の位置等に付け直した
3. 登山中、いつもより意識して「声出し」や「音出し（鈴等）」を行った
4. 当初の予定ルートを変更した、または途中で引き返した
5. 情報は見ても、特に行動は変えなかった

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。